

6 つかたせつめい 釣り方の説明



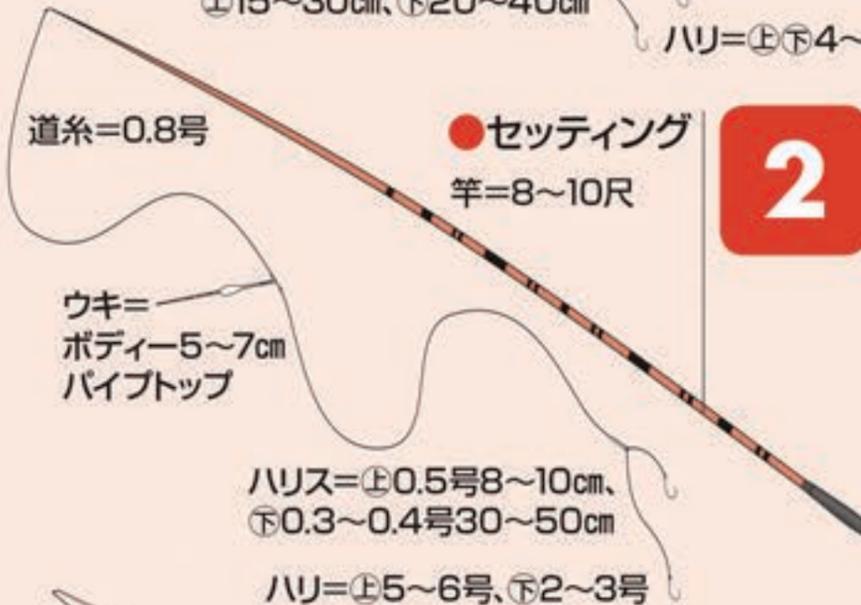
●セッティング



1 両ダンゴの浅ダナ釣り

浅ダナとは、一般的に1m前後の水深をねらう釣り方です(管理釣り場では1m規定がある釣り場もある)。それを両ダンゴでねらうので、へら鮎にある程度の活性がある時期の釣り。目安としては5~10月、特に夏場が最盛期となります。手返しよくすれば数多く釣れます。

●セッティング



2 「力玉」セットの浅ダナ釣り

へら鮎の活性が下がる冬場や、混雑などによる食い渋り時には、くわせエサに「力玉」を使ったセット釣りが有効です。上バリに付けたバラケエサでへら鮎を寄せて、くわせエサの「力玉」を吸い込むという図式です。「力玉」がハリから取れなければ待てるのもメリットです。

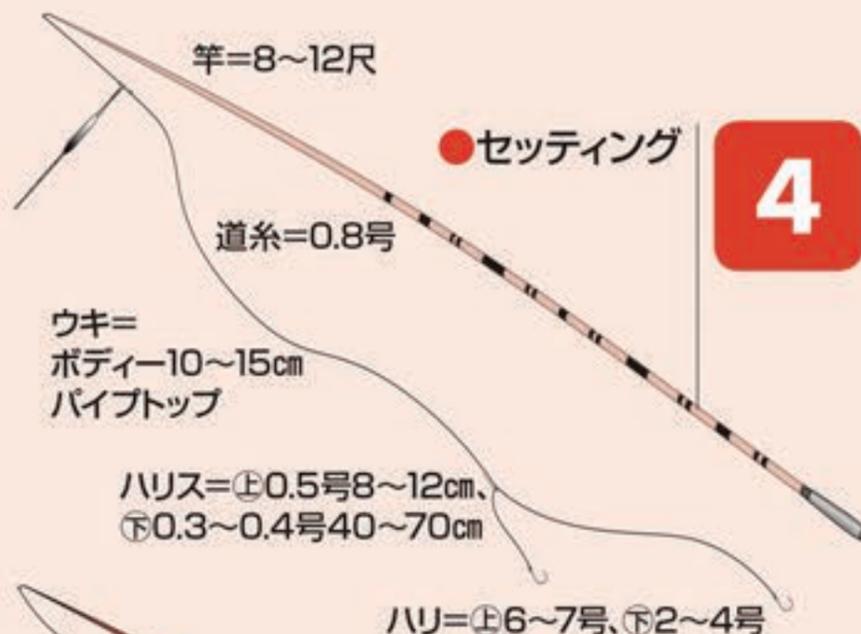
●セッティング



3 両ダンゴのチョーチン釣り

ウキを穂先に近い位置にセットして深いタナをねらうのがチョーチン釣りです。浅いタナにくらべて、ねらったタナにしっかりエサを届けていれば魚がたまるので、たくさん釣れるようになります。また、良型が揃う傾向もあり、夏から秋がベストシーズンです。

●セッティング



4 「力玉」セットのチョーチン釣り

「力玉」セットの浅ダナ釣りと同様にへら鮎の活性が下がる寒い時期や食いが渋い時に有効です。寒い時期は、魚が浮きにくいので、より効果的な釣り方です。また、両ダンゴのチョーチン釣りと同じように毎投、同じ所へエサを打てるので、魚をためやすくもあります。

●セッティング



5 両ダンゴの底釣り

文字どおり、エサを底に付けて釣る釣り方です。へら鮎は水温の安定している底に着くことも多く、活性の高い夏場をのぞけば有効な釣り方です。釣りが決まると毎回同じパターンで釣れ続きますし、時には超がつくような大型が釣れるのも大きな魅力です。

と か た タナの取り方

底釣りはエサを打つ前にタナ取りと呼ばれる水深を測る作業をする必要があります。

- セッティングが決まったら、両バリにタナ取りゴムを付けて振り込む。
- 水面にウキのエサ落ち目盛りより出る位置に調整する。もしウキが沈む場合はウキを上(竿先方向)に上げる。逆にウキが水面に出すぎている場合はウキを下(振り方向)に下げていく。
- ウキの位置が決まったら確認のためにタナ取りゴムを外し、空ハリ(エサが付いてない状態)で仕掛けを投入し、水面にエサ落ち目盛りが出ていればOK。



タナ取りゴムに両バリを付けて水深を測る。

水面にエサ落ち目盛りが出るように調整する。